

非喫煙者に孤立性充実性結節を呈した肺Langerhans細胞組織球
症の1例

長岡 良祐^a, 入江 秀大^a, 福井 崇大^a,
原田 小春^a, 船津 洋平^a, 木下 智成^b,
山本 達也^b, 黄 英文^a, 中西 邦昭^c

- a) 国家公務員共済組合連合会立川病院 呼吸器内科
- b) 国家公務員共済組合連合会立川病院 呼吸器外科
- c) 国家公務員共済組合連合会立川病院 病理診断科

要旨

症例は 69 歳，非喫煙者の女性．検診の胸部単純 X 線で右肺の結節影を指摘され，CT で右下葉に孤立性の類円形結節を認めた．気管支鏡検査を 2 回実施し，悪性所見は認めなかったが，経時的に増大し肺癌を除外できず右下葉切除術を施行した．病理所見では拡張した気管支周囲に組織球を認め，免疫染色にて CD1a，S-100 蛋白で陽性を示し，肺 Langerhans 細胞組織球症と診断した．本症は喫煙者に好発し，びまん性肺疾患として知られているが，非喫煙者での発症は少なく，孤立性結節を呈した報告はさらに稀である．

キーワード， 短縮タイトル

肺 Langerhans 細胞組織球症， 孤立性結節

Pulmonary Langerhans cell histiocytosis, solitary
pulmonary nodule

非喫煙者で孤立性充実性結節を呈した PLCH の 1 例